

文化財レスキューマニュアル策定事業

文化財・生涯学習課

1 事業目的

文化財は県民共有の貴重な財産であるとともに、未来の子孫へ確実に引き継いでいかなければならない財産であるが、近年、地震や火災等の発生により、貴重な文化財が失われている状況にある。

文化財に対する防災対策や耐震対策等といった予防対策を進める一方、あらかじめ災害時等に文化財を迅速に救出する仕組み等を作っておく必要がある。

2 事業内容

「文化財レスキューマニュアル策定に関わる懇談会」において、火災等の災害時に被災した文化財を迅速に救助するため、レスキューマニュアルの策定に引き続き取り組む。令和2年度は、令和元年台風第19号で被災した文化財の救助の状況等を踏まえて検討を行う。

文化財レスキューが迅速に行われるためには、文化財の所在地、所有者、管理者等をもとに状況に応じた対策が必要であり、マニュアル策定と並行し国・県指定文化財の所有者、状況等をまとめたレスキューリストを作成する。

また、レスキュー作業で使用された資材を購入し、県内4ヶ所の設置個所に随時補充する。(平成30年度は北信、南信に、令和元年度は東信、中信に設置)

(1) 文化財レスキューマニュアル策定に関わる懇談会の開催

○ 文化財レスキューマニュアルの策定

文化財防災対策等検討委員会からの報告を踏まえ、文化財の種類に応じた保護、搬出の初期対応をまとめる。文化財の保護、研究に携わる地域のグループや民間団体、博物館などの所在を調査し、県、市町村の文化財行政所管課等と連携したレスキューのネットワークづくりを進め、連絡先を盛り込む。

○ 検討委員会の開催

2回。委員は学識経験者、学芸員、文化財レスキュー作業経験者等。

(2) 文化財の劣化等の状況や配置状況などレスキューの際に必要な情報の収集

○ レスキューリストの作成

長野県文化財保護指導委員が実施する国、県指定文化財を対象とした「文化財パトロール」結果を分析し、文化財の所在地、劣化などの状況や所有者・管理者の連絡先などをまとめる。

(3) レスキュー作業で使用された資材の補充

○ 購入予定資材

ブルーシート、テンバコ型コンテナ、救急箱等

3 令和2年度予算額 14万9千円